

明日への力

日本総合研究所

リサーチ・コンサルティング部門
コンサルタント 中村 佳央理

④3



スポーツワーケーションとは、スポーツとワーケーションを掛け合わせたものであり、仕事(テレワーク)の合間に、地域固有の資源を活用したスポーツに取り組む滞在のことを指します。

スポーツワーケーションに関わる様々なプレーヤー

スポーツワーケーションに関係する主要なプレーヤーは、四つに大別されると考えられます。四つの分類は、①ワーケーションの実施者、実施者の所属する企業、②パブリックセクターである地方公共団体、③プ

イベントセクターである地元企業や関連企業、④ソーシャルセクターである競技連盟や協会、スポーツ関連団体、指導者やコーチです。それぞれのプレーヤーの役割、メリットやインパクトについては、下の表のとおり多岐にわたります。

ソーシャルセクター参画が鍵を握る

スポーツワーケーションは、単なるワーケーションではなく、スポーツを軸としたワーケーションであるため、競技連盟やスポーツ関連団体、指導者やコーチのようなスポーツ分野でのソーシャルセクターの関

スポーツワーケーションにおける ソーシャルセクターの関わり

与が肝になります。スポーツワーケーションで想定される競技は、地域固有の資源を活かせるような種目であり、例えば、海に面した地域でのサーフィンやダイビング、降雪量が多い地域でのスキーなどが挙げられます。このようなスポーツは、初心者参加の難易度が高いこと、ある程度の経験者でもレベルアップのためには適切な指導が求められることから、指導者やガイド役の必要性が高いと考えられます。また、レベルの高い競技者を一堂に集めるためには、合宿の開催や大会の誘致、ひいては当該スポーツ種目の聖地化が有効な方法ですが、そのた

めには競技連盟やスポーツ関連団体の協力が必要になります。

競技人口増加に寄与する可能性

これまでのライフスタイルでは、地域固有の資源を活かしたアウトドアスポーツは多くの人々にとって「非日常」のものでしたが、スポーツワーケーションが普及すると、「日常のものに近づく」と予想されます。それによって、競技連盟やスポーツ関連

団体にとって重要なミッションである、スポーツの競技人口の増加に寄与することも考えられます。初心者であ

っても、ワーケーション時に数日間連続して集中的に取り組むことで上達を実感でき、その後も生涯スポーツとして取り組んでもらえる可能性が高まることが期待できます。また、昔はアウトドアスポーツに夢中になっていたものの、転勤や就職などの節目で取り組む機会が減ってしまい、それ以来、競技から疎遠になっていたような人々の中には、スポーツワーケーションが現実的な選択肢になってくると、再開を試みる人々も一定数出てくると考えられます。アウトドアスポーツの多くの種目

は、場所を選ばず取り組めるようなスポーツと比べて競技人口が多くはない上、人口減少でスポーツに取り組む人々の絶対数が減少していく中、スポーツワーケーションの浸透は、競技人口の増加やスポーツ振興に資する有効な方法にもなりうると期待できます。

* 記事に関するお問い合わせは ml.jri.co.jp までお願い致します。

	役割	メリットおよびインパクト
① 本人	・ワーケーション実施	・仕事への集中力向上 ・ライフスタイルの変化
② 所属企業	・制度導入、人事管理 ・施設やサービスのレンタル・購入	・社員の生産性向上、働き方改革 ・社員の満足度・会社へのロイヤリティ向上
③ 地方公共団体	・遊休資産の提供 ・交通費・滞在費等の支援	・交流人口、2拠点居住者の増加 ・地域ブランド化、シビックプライド醸成
④ 地元企業	・宿泊、飲食、交通等サービス提供 ・地域での仕事の提供	・売上向上 ・働き手、次期担い手確保
⑤ 関連企業	・シェアオフィス・通信環境等の提供 ・サービス効果フィードバック	・全国事業への展開
⑥ 競技連盟、協会、スポーツ関連団体	・聖地化宣言 ・合宿や大会の誘致・開催	・競技人口の増加 ・スポーツ振興
⑦ 指導者/コーチ	・実施者へのスポーツサービス提供	・セカンドキャリア形成